



The 52th Clayteam セミナー/EBIS ワークショップ

H O P E

講演内容（ショートアブストラクト）※敬称略

●講演 1

「センダスト物語 ―ある磁性金属材料の数奇な運命―」

小山 茂典 [公益財団法人 トーキン科学技術振興財団 理事長]

目まぐるしく進化する電子デバイスの世界だが、その根幹となる素材技術は実は奥が深く息が長い。筋の良い材料の中には 50 年 100 年と利用され続けられるものもある。1932 年東北大学金属材料研究所増本量博士らによって発明された磁性金属センダストはその稀有な実例である。当初通信機用の材料として発明されたセンダストはその後姿かたちを変えながら磁気記録やノイズ抑制用途に用いられ、現代の最先端スマートフォンにも使用されている。その誕生からさまざまな変遷を遂げる数奇な運命を解説し、関連技術の歴史と共に東北発の磁気金属材料センダストの物語にスポットを当てる。

●講演 2

「東北の元気創り～そのしくみとやってみて分かったこと～」

千葉 儀憲 [一般社団法人 東北ニュービジネス協議会専務理事]

日本、特に東北の最大の課題は人口減少です。とりわけ「生産労働人口」の急激な減少は社会システムの崩壊を招きます。減少傾向の大きな流れは避けられませんが「しくみ」を創り”ソフトランディング”する必要があります。そのキーワードは次の三点であると考えます。①東北地域に本社を置く企業を掘起し側面支援する。②東北の優れた商材を全国・海外向けに販路を拓ける。③若者・女性等が東北地域で魅力を感じて働く環境創りを推進する。この三点は「生産労働人口減少対策」として相互に関連し機能し合う内容です。

一般的に経済団体の役割は会員企業の交流と支援が主ですが、東北の経済・産業の発展のためには広域事業として、元気になる「しくみ創り」を提唱し実践することが重要です。

当協議会では、『東北の元気創り』の「三本柱」として ①「東北ニュービジネス大賞」表彰制度、②「ビジネスマッチ東北」の開催、③「若者・女性の活躍推進フォーラム」の開催を現場目線で、且つ手作りで続けております。そこでは「やってみて分かったこと」を次につなげ発展させています。その成果も生まれています。このことが人口は減少しても持続可能な「しくみ創り」として未来につながると信じています。先ずはしくみを創りやってみること、そして分かったことを次につなげること、そして、続けること、これが何より肝要であることを、当日は事例をご紹介しながらお伝えさせていただきます。

●講演 3

「標準化政策の現状と今後の方向性」

岡野 佑香 [経済産業省 イノベーション・環境局 基準認証政策課 課長補佐]

グローバル市場の変化を踏まえ、標準化活動は、経営戦略と一体的かつ能動的に取り組むことがこれまで以上に重要となっています。政府としても「日本型標準加速化モデル」（2023 年 6 月）にて官民各主体の取組方針を示し、具体的な施策を推進してきたところです。本講演では、これまでの政府の取組の進捗

をご紹介しますとともに、今後の展望についてお話しします。

●講演 4

「ナノテクノロジー国際標準化と Clayteam への期待」

藤本 俊幸[産総研 企画本部チーフ標準化オフィサー

ISO/TC229 ナノテクノロジー 国内審議委員会委員長]

ISO にナノテクノロジーに関わる技術委員会が設立されて 20 年になる。本講演では、設立時からナノテクノロジーに関わる国際標準化をリードしてきた日本の活動の軌跡を概観する。さらに欧州で提言された、「規制に用いることができるナノ材料の定義」導入に向けた対応を紹介するとともに、ナノクレイの適切な産業利用促進に向けて考慮が望まれる事項について述べる。